

第1回理学部海外渡航制度に参加して

私達は理学部のプログラムで、今年の春休みの3月上旬に10日間米国インディアナ大学を訪問してきました。理学部各学科の3、4年から10名が選ばれ、去年の8月頃から先方の大学との連絡や渡航の準備を行ってきました。理学部として初めてのプログラムと言うこともあって最初は何をしていたか途惑う事もありましたが、インディアナ大学の方の好意にも助けられ大きな失敗も無く、非常に貴重な経験を得る事ができました。このようなプログラムを企画し、さらに数々の助言を下された理学部、および理学部国際交流室の方々に感謝を申し上げたいと思います。

今回はインディアナ大学の各施設（研究室や図書館、ミュージアムシアター）を10名全員、あるいは各個人で訪問し、話をうかがうという形式を取りました。個人行動は午後3日間あり、各自が主に自分の専攻する分野の教官や学生に事前に連絡を取り（あるいは飛び入りで）、おおよそ1時間位話を伺いました。印象として皆さん大変親切で、忙しい中時間を割いて丁寧に説明をしてくださったと思います。全員で自分の専攻と異なる分野の施設にも訪れましたが、他学科の研究の見学も普段はなかなかしないことでもあり、こちらもいい体験になりました。図書館など東大にも立派なものがあるのでな

にをいまさらという感じもしていましたが、規模（13階建て!）、美しさ、コンピュータ検索システムの充実度など、結構驚かされました。

今回のプログラムで10名が受けた印象はそれぞれ異なるでしょうが、共通の印象としては、月並みかもしれませんが異文化を肌で感じた時の驚きや感動といったものだったと思います。特に今回は両大学の学部同士の交流だった事もあり、大学の施設を詳しく見学し、学内の方の話を聞く機会も多く持つ事ができました。そのため普通に旅行をするよりも近い距離でインディアナ大学の学生、教官と接することができ、アメリカの大学についてより具体的に知る事が出来ました。

インディアナ大学は大変美しい大学で、広さも東大の10倍以上あります。日本では修士課程、博士課程に移る時に学科や大学を変える人はそれほど多くなく、また東大の学生は特に他の大学に関心を持たない傾向があるかもしれませんが、趣の異なる異国の大学を訪れると否応無しに目が外に向けられるようになります。将来大学に残ろうと思っている人でなくとも、この視野の変化は大きな経験になる事と思います。今後も理学部海外渡航制度が継続されることを望みます。

(参加者一同)



Final Reception にて



Welcome Reception



ガールスカウトの子供達と



天文の研究室で

第1回理学部海外渡航制度—インディアナ大学訪問

理学部が平成10年度に初めて募集した第1回理学部海外渡航制度には理学部3年、4年生合わせて60名余りの応募があり、その中から書類選考と面接で選ばれた10名が今年の2月28日から3月10日アメリカ合衆国インディアナ州立大学を訪れた。インディアナ大学 (Indiana University, 以下 IU) は1820年に創立されたアメリカで最も古い州立大学の一つであり、今回訪問した College of Arts and Science のあるブルーミントン・キャンパスはインディアナ州の州都インディアナポリスから南に80キロメートルに位置する1860エーカーの大変美しいキャンパスである。Bloomington という地名は花が咲くという意味の Bloom から由来していることもあり、緑豊かで自然が多いキャンパスには今にも咲きそうなチューリップや水仙の芽があちこちに見られた。

成田を出発して12時間後、シカゴで国内線に乗り継ぎインディアナポリスに到着すると受け入れ側のコンタクトパーソンである教養学部副学部長の Lisa Townsend 教授が自ら大学の車を運転し IU の学生と共に我々を出迎えてくれた。キャンパスまでは車で約一時間。夕方にキャンパス内のホテルに到着後は日本からの長旅を配慮し、スケジュールは自由となっていた。2日目は大学に隣接している町の中央にあるカフェで温かい朝食を取りながら IU の学生、教官と顔合わせをした後大学に戻り、米国に移り住んで30年という生物学の東ヶ崎 (とがさき) 教授から日本とアメリカの大学・大学院の特徴について英語で講義を受ける。アメリカでは学生が1つの大学で学士号取得後、修士・博士号を同じ大学の大学院で取ることは珍しいようだ。これは自分が学士号を取った大学とは別の大学に行くことによりアメリカのさまざまな大学で学び、異なる地域で生活し、いろいろな人に会うことにより視野を広げることが大切という考え方があり、教官を採用する際にも母校ではなく他大学出身者を選ぶなど Intellectual Breeding を配慮しているそうである。またアメリカの大学で教官の終身在職権である tenure を獲得することは容易ではなく、博士号を取得し教官として採用された後も優れた論文を何本も書き、授業において良い評価をうけ、厳しい競争を勝ち抜いていかなければならないという話を学生達は興味を持って聞いていた。午後のキャンパスツアーでは、東大本郷キャンパスの20倍近くもある敷地内に点在する真新しいスポーツ施設や建物のデザイン自体も美しい美術館、学生が舞台衣装・装置から出演まですべてをこなすという立派なミュージカルアーツセンター、コンピューターが何十台も置かれている巨大な図書館などを IU の学生に案内され、その充実ぶりに感心する。宿泊していたホテルが入っている Indiana Memorial Union (IMU) は全米1の建物面積を持つといわれるだけあり、暖房が良くきいている建物内

にはブックストアからカフェテリアまですべて揃っていた。夕方には歓迎レセプションが用意され国際交流担当の O'Meara 学生部長を含む IU の教授、学生、大学職員の人達約20名が温かく迎えてくれた。

3日目から6日目までは朝から地質、物理、化学、天文などの教授の研究室や、サイクロトロンセンターなど科学系の実験施設を見学してまわり、午後は専門分野が異なる東大の学生たちはそれぞれ個人で予約した研究室を見学した。滞在中に IU の実験・研究施設をいくつも見た結果、「IU も東大もあまり差がなく、東大もかなり実験機器や研究環境に恵まれている」ことを学生たちは再認識したようである。また「東大の教授は忙しくてなかなか学部生と会って話す時間が取れない。こちらの大学では教授たちがいつも自分の研究室のドアを開けて Welcome という雰囲気があり、羨ましい」といった声もあがった。学生たちは日本出発前に週一回、国際交流室に集まり希望する訪問先やスケジュールを決めたり、東大理学系研究科に留学しているアメリカ人研究生のボランティア英会話の特訓を受けて準備していったためか、IU 滞在中英語での意思疎通も問題なく、みなこのびのびと楽しんでいたように思う。研究関連以外にも日本からの学生にいろいろ経験してもらおうと、夜は IU の学生との交流も兼ねてフォークダンスやオペラ観劇が盛り込まれ、週末は大学から車で1時間半ほどの所にあるマレンゴ洞窟を見学したり、インディアナポリスのショッピングセンターで買い物の時間を取ったりと大変充実していた。Townsend 教授は事前に Email で東大の学生の希望を十分に取り入れた実に細かいスケジュールを組み、受け入れ準備をしてくださっていた。また予定には入っていなかったが、IU の学生が、ホテルに滞在しているだけでは学生の生活環境が分かりづらいだろうと自分たちが住んでいる家やアパートに招待し、一緒に住んでいる姉妹や友人を紹介しながら部屋を案内してくれたお蔭でキャンパスの外に住む学生達の生活にも触れることが出来、貴重な経験をさせていただいた。

帰国前夜の最後のレセプションではビュッフェスタイルの夕食が用意され、このプログラムを実現するにあたって多大な御尽力をいただいた IU の大学院学生部長である Walker 教授の挨拶の後、東大から参加した10名全員が一人ずつ英語で IU を訪問した感想や印象を述べ、お世話になった IU の教授や学生達と食事をしながら最後の別れを惜しんだ。10日間という限られた時間ではあったが、学生一人一人の顔が生き生きと輝いていたことがとても印象深かった。今回の参加者のうち4年生は全員が修士課程に進学したが、まだ自己の将来像が確定しきっておらず、頭が柔軟で感性が豊かな学部生時代に日本以外の大学を訪問することにより世界の広さと教育制度の

違いを感じ、多くのことを吸収してもらえたと確信している。この経験が個々の学生にとって今後の研究や進路選択、そして人生においてどのように活かされていくか、楽しみである。最後にこのような貴重な機会を学生に与えて下さった関係者の方々にこの場をおかりして心から感謝すると共に、近い将来もし理学部で海外の大学から

の学生の訪問を受け入れる際には、是非御協力をお願いしたい。

理学系研究科・理学部国際交流室
助手 五所 恵実子（付添）



1号館前にカイノキ「楷の木」が植樹される

平成11年1月、1号館前の左右に一对のカイノキが植樹されました。この木は小石川植物園が中国山東省の孔子の墓所から譲りうけたもので、カイ「楷」は楷書の語源とされ、訓は「ノリ」意味は「手本」です。材質は堅く、香りが高く、中国では科挙の合格者にこの木で作った笏を与えて名誉を讃えたと伝えられており、このことからわが国では「学問の木」「儒学の象徴」とされています。

植樹以来数カ月、成長の度合いに差はあるものの共に元気に初夏の風に吹かれております。1号館付近にお出での折には是非ご覧ください。



植樹を行う 壽榮松研究科長

停年退官教官を囲んでの記念撮影

平成11年3月に退官される、尾崎洋二教授（天文学専攻）、矢崎紘一教授（物理学専攻）、遠山潤志教授（物理学専攻）、関口雅行教授（原子核科学研究センター）を

囲み理学部1号館正面玄関において理学系研究科・理学部教授会構成員と恒例の記念撮影を行いました。



東京大学理学部教授会1999年3月17日於：理学部1号館前

ビッグバン宇宙国際研究センターの門標を上掲

平成11年4月に大学院理学系研究科附属の教育実習施設としてビッグバン宇宙国際研究センターが発足し、小間理学系研究科長、佐藤センター長により門標の上掲が行われた。同センターはビッグバン宇宙の理論的研究の急速な進歩、及び光電技術の発達により、150億光年前の宇宙の創生と初期宇宙の進化のモデルを構築することを目的として設置された。また、これまでの「卓越した研究拠点（COE）形成プログラム」の研究成果を踏まえ、初期宇宙の探究を総合的に研究する国際的研究センターとしても大きな役割を果たす等飛躍的な発展が期待されている。



門標識を上掲する小間研究科長(右)と佐藤センター長(左)

理学系研究科長（理学部長）と理学部職員組合との交渉

1999年2月15日及び3月23日に壽榮松研究科長、宮田事務長補佐（小林事務長代理）と、4月19日に小間新研究科長、植田新事務長と理学部職員組合（理職）との間で定例研究科長交渉が行われた。主な内容は以下の通りである。

1. 昇給・昇格

事務職員

2月の交渉で理職は事務主任の定年3年前6級昇格上申について尋ねた。事務長は事務官の6級昇格は上申する正式な公文書はなく、あくまで相談する形だと答えた。理職は職員の待遇改善の実現を要求した。また、行（二）から行（一）に振り替わって3年が経過する掛員の掛主任発令を要望した。

3月の交渉で理職は昇格に関する要望事項への取り組みについて尋ねた。事務長は、資料等の提出はしてあると答えた。理職は、かなり長い間、待遇改善がなされていないので、引き続き取り組むよう要求した。

4月の交渉で理職は事務主任の定年3年前6級昇格を4月に遡って発令されるよう要望した。また、理学部ではここ数年事務主任・専門職のポストは全く増えていないことを指摘し、働く意欲と希望を持てるよう待遇改善を要求した。理職は、この4月に他部局で専門職が複数ついたことを指摘し、研究科長は他部局の例をよく研究したいと答えた。

図書職員

2、3月の交渉で理職は、行（二）から行（一）に振替になり、年齢と号俸の条件は満たしていて、1999年4月で4級在級が丸5年となる図書職員について、2000年4月には在級年数が基準に達するが、高年齢になっているので、1999年度での5級昇格実現への取り組みを重ねて要望した。事務長補佐は承知した、と回答した。また、1999年度に3基準を満たす職員についての5級昇格も要望した。事務長補佐は推薦していると回答した。

2月の交渉で理職は、12月に提出した昇格要望書に関連し、6級昇格については文人給通り、5級以下の昇格については文部省の推薦基準を満たす者は全員昇格推薦の有資格者であることを再確認した。事務長補佐は、その通りであると回答した。

4月の交渉で理職は、5、6級昇格有資格者の昇格を要望した。理職は、行（二）から行（一）に振替になった経緯があり、5級昇格が遅れている図書職員について、1999年4月1日付での5級昇格の見込みについて尋ねた。事務長は、要望は出しており、昇格について動きがあるのはこれからだと回答した。5級昇格の3基準を満たす

職員については、問題なく昇格できるはずなので、確実に実現してほしいと要望した。

2月の交渉で理職は、図書職員の昇格に関する資料を提出し、全国国立大学で東京大学の役職率が最低位にあること、理学部は掛長ポストが1つしかなく、東大内でも役職率が低いことを指摘した。さらに理学部図書職員の5級高位号俸化、55歳昇給停止による待遇悪化についても指摘、現場の教育研究を支える職員の待遇改善のため、専門職員の導入を要求した。

これに対して研究科長は、理学部だけでは解決できない、図書職員全体的話なのでもっと大きな場で考えるべきであると答えた。科長は、図書職員が他職種に比べて明らかに待遇が悪いと分かるデータが必要だが、役職が少ないことは理解したと述べた。

3月の交渉で理職は、図書職員の昇格改善について、人事課長へも提出済であるさらに詳細な資料を提出した。理職は、図書職員のポストが少ないことによる5級高位号俸者の溜まりこみの問題、6級以上の級への昇格の劣悪さ並びに理学部図書室業務の専門性や困難度について説明と問題点の指摘を行い、職務にふさわしい処遇を強く要求した。

研究科長は、現場職員が担っている職務の重要性については理解した、また理学部の図書職員が他大学、他職種に比べて待遇が良くないことは承知した、と答えた。また科長はこのような問題は図書の上位職がもっと考えるべきことだと述べた。

4月の交渉で理職は、新研究科長と新事務長へ昇格改善要求資料を提出し、学科図書室の職員は処遇面で恵まれていないが、スタッフとして働く人材を大切にしたいと昇格改善を要求した。

技術職員

2月の交渉で理職は、11月来交渉で要求していた、2000年3月定年予定技術職員の5級昇格が実現したことについて、謝意を表した。

理職は12月に技官の昇格要望書を提出したが、その後追加の該当者があったので、3月の交渉で修正版の要望書を提出した。

2. 研修旅費

技術職員

技官の研修旅費について、昨年12月に要望書を出したが、新研究科長へもあらためて要望した。研究科長は財源そのものがゼロに近づいているので、完全に今まで通りというわけには行かないが、出来るだけ財源確保に

努力すると答えた。

図書職員

2月の交渉で理職は、研修旅費の追加配分実現について謝意を表し、1999年度の要望はいつまでにどのような形で出すとよいか尋ねた。研究科長は、1999年度の配分に間に合うよう、早めに図書委員会から会計委員会に要望を出してもらおうとよいと答えた。

3月の交渉で理職は、図書委員長から会計委員長に研修旅費の要望が出されているはずなので、1999年度も旅費を確保するよう要望した。

4月の交渉で理職は、4月の会計委員会で研修旅費の件がどうなったか質問した。研究科長は、その場に出席していなかったので分からない、今年度の図書委員会から会計委員会へ4月中に要望を出してもらおうとよいだろうと回答した。理職は研究科長としての努力を求めた。研究科長は努力したいと答えた。

3. 事務一元化

2月の交渉で理職は、4月から環境安全センターと合同事務部化になるが事務部長制についてはどうなるのか質問した。事務長補佐は、現状通りであると答えた。理職は、一旦発足した後、事務部長制に移行するのは難しいのではないかと追及した。研究科長は、今、内示のある範囲では組織変更はない、要求はしたが認められなかったと答えた。

理職は、事務部長制化に際しては図書組織化はどのように考えているか問いただした。研究科長は、組織化は図書室全体がどうなるかと関係するが、建物については何ら進展がないと答えた。

理職は旅費システムの立ち上げで教室事務の仕事は増えたことを指摘し、説明会を要望した。

4月の交渉で理職は、図書の組織化について、その後の進展を尋ねた。研究科長は止まったわけではなく、検討中であると答えた。理職は図書館構想がどうなっているか質問した。研究科長は、理学部図書館については昨年度の企画委員会で検討し、近い将来概算要求を出したいと考えている、と答えた。理職は引き続き情報の公開を要求した。

4. 定員削減

2月の交渉で理職は、環境安全センターとの合同事務部化することにより定員削減があるか質した。研究科長は、本部の説明では、定員削減をしのぐための合同事務部化であると答えた。

3月の交渉で理職は、植物園退職者の後任について尋ねた。事務長補佐は、人事委員会にかけて1名補充すると回答した。

5. その他

2月の交渉で理職は、理職書記局と理学部休養室の移転について謝意を表し、書記局移転に関する要望のうち解決していない部分については重ねて実現を要望した。理職は、職員全体に関わる休養室の移転については、理学部広報への掲載を求めた。研究科長は承知したと答えた。

2月の交渉で理職は、新領域創成科学研究科の図書業務について、従来の所属部局図書室で行ってほしいという話があることについて、単に図書の利用だけではなく、いろいろな会計業務が派生するので、新研究科内に業務担当者を置いて欲しいと要望した。このことについて事務長補佐は、新研究科の事務とは話をしてあり、迷惑をかけないようにするとのことである、図書掛長には話をしてある、と答えた。

3月の交渉で理職は、新研究科と理学部は予算が別なので、新研究科に図書担当者を付けてほしいと要望した。研究科長は、事務長から新研究科の事務部へきちんと申し入れすべきであると述べた。

4月の交渉で理職は、新研究科の学生の図書室利用が始まって来ているが、新研究科から図書室利用及び図書業務に関する要請書が来たか尋ねた。研究科長は来ていないと回答した。理職は会計的な業務には新研究科できちんと対応してほしいと要望した。

2月の交渉で理職は、独立行政法人化について何か聞いているか質問した。研究科長は、何も聞いていないと答えた。4月の交渉で理職は、独立行政法人化について何も話がないのか尋ねた。研究科長は話が消えたわけではなく、2003年には結論を出さなければならないことであると答えた。

3月及び4月の交渉で理職は、情報基盤センターから何か聞いているか尋ねた。研究科長は、何も聞いていないと答えた。

3月の交渉で研究科長は、交渉の開催頻度について、緊急の場合は対処するが、定例では交渉を2月に1度にしてほしい、新研究科長と相談してほしい、と述べた。

4月の交渉で理職は、地球惑星科学専攻の現状を尋ね、資料を要求した。研究科長は、昨年度教授会で4専攻がまとまることを承認した、概算要求のために作成したパンフレットをもらえるよう取り計らう、概算要求を出すことに力を注ぎたい、と回答した。

人事異動報告

(講師以上)

所属	官職	氏名	発令年月日	異動内容	備考
物理	教授	矢崎 紘一	11.3.31	停年退官	
〃	〃	遠山 潤志	〃	〃	
原子核	〃	関口 雅行	〃	〃	
化学	助教授	大西 洋	〃	辞職	神奈川科学技術アカデミーへ
物理	〃	藤森 淳	11.4.1	昇任	新領域創成科学研究科教授へ
地惑	〃	松井 孝典	〃	〃	〃
化学	〃	岩澤 伸治	〃	〃	東京工業大学教授へ
〃	〃	村田 道雄	〃	〃	大阪大学教授へ
〃	〃	齊木 幸一朗	〃	〃	新領域創成科学研究科教授へ
生科	〃	馳澤 盛一郎	〃	〃	〃
〃	〃	大矢 禎一	〃	〃	〃
〃	〃	河野 重行	〃	〃	〃
スペクトル	〃	朝倉 清高	〃	〃	北海道大学教授へ
原子核	教授	片山 武司	〃	〃	助教授より
ビッグバン	助教授	茂山 俊和	〃	〃	助手(天文学)より
天文	教授	尾崎 洋二	〃	転任	長崎大学教授へ
化学	〃	塩谷 光彦	〃	〃	岡崎国立共同研究機構教授より
鉱物	助教授	杉山 和正	〃	〃	東北大学助教授より
情報	教授	西田 友是	〃	配置換	新領域創成科学研究科教授へ
物理	〃	高瀬 雄一	〃	〃	〃
生科	〃	雨宮 昭南	〃	〃	〃
〃	〃	平井 百樹	〃	〃	〃
〃	助教授	藤原 晴彦	〃	〃	新領域創成科学研究科助教授へ
〃	〃	三谷 啓志	〃	〃	〃
地理	教授	大森 博雄	〃	〃	新領域創成科学研究科教授へ
天文	助教授	牧野 淳一郎	〃	〃	総合文化研究科助教授より
地惑	講師	船守 展正	〃	採用	
化学	〃	後藤 敬	〃	〃	
〃	〃	紫藤 貴文	〃	〃	
植物園	教授	邑田 仁	〃	〃	
ビッグバン	〃	川崎 雅裕	11.4.16	昇任	宇宙線研究所助教授より
化学	講師	佐々木 誠	11.5.16	〃	助手より

(助手)

所属	官職	氏名	発令年月日	異動内容	備考
原子核	助手	今西 章	11.3.31	停年退職	
物理	〃	渡邊 隆行	〃	辞職	湘南工科大学助教授へ
化学	〃	石橋 孝章	〃	〃	神奈川科学技術アカデミーへ
情報	〃	赤間 陽二	11.4.1	昇任	東北大学助教授へ
物理	〃	関本 裕太郎	〃	〃	国立天文台助教授へ
〃	〃	三沢 和彦	〃	〃	東京農工大学助教授へ
〃	〃	江尻 晶	〃	〃	新領域創成科学研究科助教授へ
〃	〃	溝川 貴司	〃	〃	〃
生科	〃	酒井 敦	〃	〃	奈良女子大学助教授へ
〃	〃	園池 公毅	〃	〃	新領域創成科学研究科助教授へ

その他

所属	官職	氏名	発令年月日	異動内容	備考
生 科	助手	河 村 正 二	11.4. 1	昇 任	新領域創世科学研究科助教授へ
スペクトル	〃	廉 罕 雄	〃	〃	工学系研究科講師へ
物 理	〃	岡 朋 治	〃	採 用	
〃	〃	藤 貴 夫	〃	〃	
化 学	〃	北 村 充	〃	〃	
〃	〃	佐 藤 伸	〃	〃	
生 科	〃	古 本 強	〃	〃	
物 理	〃	松 原 隆 彦	〃	休職更新	11.4.1~12.3.31
〃	〃	中 村 隆 司	〃	〃	〃
〃	〃	伊 倉 貞 吉	11.4. 8	〃	11.4.8~12.4.7
生 科	〃	出 村 拓	11.4.16	配置換	植物園より
生 化	〃	道 上 達 男	11.4.30	辞 職	科学技術振興事業団へ
ビッグバン	〃	杉之原 立 史	11.5. 1	配置換	物理学専攻より
生 化	〃	善 野 修 平	11.5.16	採 用	
物 理	〃	八 木 隆 多	11.5.31	辞 職	

(併 任)

所属	官職	氏名	発令年月日	異動内容	備考
物 理	教授	福 山 秀 敏	11.3.31	併任期間満了	
地 惑	〃	河 野 長	〃	〃	
鉱 物	〃	田賀井 篤 平	〃	〃	
化 学	〃	小 間 篤	11.4. 1	研究科長・学部長・評議員	併任
物 理	〃	釜 江 常 好	〃	評議員	併任
生 科	〃	長 田 敏 行	〃	植物園長	併任
地 殻	〃	野 津 憲 治	〃	地殻化学実験施設長	併任
物 理	〃	石 原 正 泰	〃	原子核科学研究センター長	併任
〃	〃	佐 藤 勝 彦	〃	ビッグバン宇宙国際研究センター長	併任
情報 (流動講座)	助教授	安 藤 秀 樹	〃	併 任	本務：名古屋大学
物 理 (流動講座)	教 授	佐々木 節	〃	〃	本務：大阪大学
〃	助教授	平 塚 寿 章	〃	〃	本務：旭川医科大学
天 文 (流動講座)	教 授	安 藤 裕 康	〃	〃	本務：国立天文台
〃	〃	中 井 直 正	〃	〃	本務： 〃
〃	〃	井 上 允	〃	〃	本務： 〃
〃	〃	常 田 佐 久	〃	〃	本務： 〃
〃	助教授	山 下 卓 也	〃	〃	本務： 〃
地 惑 (流動講座)	〃	齊 藤 義 文	〃	〃	本務：宇宙科学研究所
化 学 (流動講座)	教 授	渡 部 徳 子	〃	〃	本務：東京水産大
生 科 (流動講座)	〃	大日方 昂	〃	〃	本務：千葉大
〃	〃	近 藤 孝 男	〃	〃	本務：名古屋大学
〃	〃	武 田 正 倫	〃	連携併任	本務：国立科学博物館
〃	〃	柏 谷 博 之	〃	〃	本務： 〃
〃	〃	馬 場 悠 男	〃	〃	本務： 〃
〃	〃	藤 島 政 博	〃	〃	本務：山口大学
〃	〃	長谷川 政 美	〃	〃	本務：統計数理研究所
〃	〃	日 詰 雅 博	〃	〃	本務：愛媛大
〃	〃	山 根 正 氣	〃	〃	本務：鹿児島大学
〃	助教授	松 浦 啓 一	〃	〃	本務：国立科学博物館
〃	〃	樋 口 正 信	〃	〃	本務： 〃
〃	〃	加 瀬 友 喜	〃	〃	本務： 〃

所属	官職	氏名	発令年月日	異動内容	備考
地質 (流動講座)	教授	北里 洋	11.4.1	併任	本務：静岡大
物産 (流動講座)	教授	大隅 一政	〃	〃	本務：高エネルギー加速器研究機構
地質 (流動講座)	〃	海津 正倫	〃	〃	本務：名古屋大学
生科	客員教授	鈴木 隆雄	〃	〃	本務：東京都老人総合研究所
〃	客員助教授	丸田 恵美子	〃	〃	本務：東邦大学
原子核	客員教授	本林 透	〃	〃	本務：立教大学
〃	客員助教授	中川 孝秀	〃	〃	本務：理化学研究所

(職員)

所属	官職	氏名	発令年月日	異動内容	備考
事務部	事務長	小林 銀一郎	11.4.1	昇任	海洋研究所事務部長へ
〃	人事掛長	伊藤 嘉朗	〃	配置換	教養学部等総務課人事掛長へ
〃	図書掛長	小山 修美	〃	〃	教養学部等図書課閲覧掛長へ
〃	学生掛長	岡本 秀人	〃	〃	医学部・医学系研究科大学院掛長へ
〃	経理掛長	吉澤 亮	〃	〃	海洋研究所経理課用度掛長へ
〃	経理掛主任	塩谷 祥子	〃	〃	教育学部・教育学研究科用度掛主任へ
物理	事務室主任	加藤 喜子	〃	〃	工学部・工学系研究科化学生命系総務掛長へ
事務部	事務官	遠藤 健三	〃	〃	教養学部等教務課大学院第一掛へ
〃	〃	野場 琢也	〃	転任	東京国立近代美術館庶務課経理係へ
〃	〃	内田 千代美	〃	昇任	工学系研究科等経理課経理掛主任へ
〃	〃	山本 太	〃	配置換	経理部主計課へ(文部省体育局生涯スポーツ課企画調整係(併))
〃	〃	志村 正規	〃	転任	大学入試センター会計課経理係へ
〃	技官	山崎 隆行	〃	配置換	施設部企画課へ(文部省文教施設部技術課(併))
情報科学	事務官	東方 智洋	〃	転任	国立三瓶青年の家へ(国立オリンピック記念青少年総合センター業務課業務第一係(併))
物理	〃	大島 大輔	〃	配置換	法学部・法学政治研究科教務掛へ
〃	〃	島田 淳子	〃	〃	教養学部等図書課整理掛へ
情報科学	事務室主任	大日方 京子	〃	辞職	放送大学学園東京第二学習センター総務係長へ
事務部	事務官	柳澤 高広	〃	〃	放送大学学園放送部企画管理課素材管理係へ
化学	〃	谷 智子	〃	〃	
事務部	事務長	植田 榮司	〃	配置換	農学部附属演習林事務長より
〃	共同利用主任 共同利用掛長 (併)	牧野 信雄	〃	〃	環境安全研究センター事務主任より
〃	人事掛長	野々原 明	〃	〃	工学部・工学系総務課庶務掛長より
〃	図書掛長	本多 玄	〃	転任	東京学芸大学附属図書館情報サービス課参考調査係長より
〃	学生掛長	吉川 誠	〃	配置換	史料編さん所庶務掛長より
〃	経理掛長	三浦 孝樹	〃	〃	生産技術研究所経理課経理第一掛長より
〃	庶務掛主任	海老沢 節夫	〃	〃	物性研究所総務課庶務掛主任より
〃	〃	藤田 英子	〃	〃	農学部・農学生命科学研究科庶務掛主任より
〃	共同利用 掛主任	塩野 隆	〃	〃	環境安全センター事務室主任より
〃	経理掛主任	福島 まり	〃	〃	物性研究所経理課用度掛主任より
〃	用度掛主任	木村 保	〃	昇任	宇宙線研究所共同利用掛より
情報科学	事務室主任	水野 冴子	〃	配置換	教育用計算機センター総務掛庶務主任より
事務部	事務官	渡邊 雅弘	〃	〃	法学部・法学政治学研究科研究室総務掛より
〃	〃	小倉 聡司	〃	〃	医学部附属病院管理課用度第二掛より
〃	〃	齋藤 洋子	〃	〃	施設部企画課電話交換手より
〃	〃	岩下 金史	〃	〃	経理部主計課より(文部省大臣官房政策課政策調整係(併))
〃	〃	小坂 規	〃	〃	文学部・人文社会系研究科視聴覚教育センターより
情報科学	〃	佐藤 美香	〃	〃	研究協力部留学生課より
物理	〃	貞方 邦仁子	〃	転任	京都大学理学部用度掛より
植物園	技官	出野 貴仁	11.5.1	採用	

博士（理学）学位授与者

平成11年2月22日付学位授与者（6名）

種別	専攻	申請者名	論文題目
課程博士	物理学	伊藤 晋	電子線・イオン線による Si(111) 表面上の (Ag, Au) 二元合金構造と熱脱離過程の研究
論文博士	情報科学	高橋 大介	分散メモリ型並列計算機における高速多倍長計算とその応用
〃	〃	稲葉 真理	特徴多様体上の幾何クラスタリング問題について
〃	物理学	井上 公	電子相関の強い遷移金属酸化物 $\text{Ca}_{1-x}\text{Sr}_x\text{VO}_3$ と Sr_2RuO_4 との電子状態
〃	〃	河邊 径太	3メーター Fabry-Perot-Michelson 干渉計型重力波検出器の開発
〃	地球惑星物理学	古 恵 亮	小規模内部波スペクトル中でのエネルギー輸送に対する局所的相互作用の重要性：3次元数値計算

平成11年3月15日付学位授与者（9名）

課程博士	物理学	松崎 恵一	硬X線による大質量星形成領域の研究
〃	地球惑星物理学	中西 幹郎	霧の内部構造と予報に関する数値的研究
〃	生物科学	鵜澤 和宏	北海道噴火湾岸有珠地域における縄文時代からアイヌ文化期にいたる動物資源利用の変遷：遺跡出土動物骨のタフオノミー的分析
〃	地理学	木村 圭司	シベリア高気圧の季節変化と年々変動
論文博士	生物科学	海部 陽介	歯槽性突顎と前歯前突に与える歯牙咬耗の影響
〃	地質学	寺林 優	フランススカンコンプレックスの温度圧力構造
〃	〃	石塚 治	伊豆小笠原弧背弧地域における火成活動の時空変遷及びそれに伴う熱水活動—レーザー加熱 ⁴⁰ Ar/ ³⁹ Ar法の適用
〃	鉱物学	重松 紀生	低温領域における斜長石の動的再結晶と転位クリープ
〃	地理学	富樫 幸一	基礎素材産業の立地変動に関する地理学的研究

平成11年3月29日付学位授与者（155名）

課程博士	情報科学	宮澤 元	大規模分散ファイルシステムの設計と実装
〃	〃	梅津 信幸	多重解像度ボクセル相互作用を用いたボリュームデータのための形状モデリングおよび直接照明の統一的フレームワーク
〃	〃	佐山 弘樹	決定性単純セルラオートマタ空間を用いた進化系の構築
〃	〃	由良 俊介	大規模な共有仮想環境のためのブラウザに関する研究
〃	物理学	松崎 浩之	¹⁰ Be と ²⁶ Al の AMS 測定による惑星間塵の起源と運動に関する研究
〃	〃	佐藤 健	多様なブレイン背景における超対称代数とブレインの様々な超対称配位
〃	〃	白川 晃	非平行光パラメトリック増幅によるサブ 5fs パルス発生とそのポリジアセチレンにおける構造緩和の研究への応用
〃	〃	谷 太郎	ストリング ジャンクションによる物質場の導出
〃	〃	赤木 和人	Si(001) 表面における水分子のプロトンリレー型解離吸着—第一原理的アプローチ
〃	〃	阿久澤 利直	ランダム行列理論の拡張とその応用
〃	〃	浅野 建一	量子ホール系の動的性質
〃	〃	安東 正樹	レーザー干渉計重力波検出器のパワーリサイクリング
〃	〃	生嶋 健司	イッテリビウムとウラン NMR の直接的観測による f 電子系の電子状態に関する研究
〃	〃	石井 賢司	アンモニア・アルカリ金属・C ₆₀ 三元化合物に関する構造物性の研究
〃	〃	石川 忠彦	層状ペロブスカイト型 Mn 酸化物の分光学的研究
〃	〃	石野 宏和	スーパー神岡実験における太陽ニュートリノのエネルギースペクトルの研究

種別	専攻	申請者名	論文題目
課程博士	物理学	犬塚 将英	HERA における低い Q^2 電子陽子散乱での回折散乱断面積の測定
〃	〃	井野 明洋	高温超伝導体 $\text{La}_{2-x}\text{Sr}_x\text{CuO}_4$ の光電子分光
〃	〃	伊豫本 直子	近傍銀河における活動性が減少した中心核ブラックホールの X 線観測
〃	〃	植田 康弘	ペロブスカイト型金属バナジウム酸化物における電子状態の核磁気共鳴法による研究
〃	〃	大井 万紀人	バンド交差領域における揺動運動
〃	〃	大岩 颯	III-V 族希薄磁性半導体における伝導と磁性
〃	〃	大川 裕司	ディリクレ粒子の多体散乱
〃	〃	奥村 公宏	スーパーカミオカンデにおける大気ニュートリノの観測及びニュートリノ振動解析
〃	〃	奥山 和美	ストリングジャンクションと $N=4\text{SU}(N)$ 超対称ヤンミルズ理論の $1/4\text{BPS}$ 状態
〃	〃	梶 永泰正	古典的非線形可積分力学系及び関連する系の研究
〃	〃	粕谷 伸太	スカラー場の運動に対するパラメータ共鳴の宇宙論的影響
〃	〃	加藤 清	量子モンテカルロ法による低次元ランダム反強磁性量子スピン系の研究
〃	〃	加藤 岳生	摩擦のある量子系におけるダイナミクスと熱力学
〃	〃	神島 謙二	3d 遍歴電子磁性体 $\text{Mn}_3\text{Ga}_{1-x}\text{Al}_x\text{C}$ の温度および磁場誘起磁気相転移
〃	〃	木村 昌臣	一次元中の非局所相関をもつ乱雑系と非局在化
〃	〃	河野 俊介	共鳴蛍光にみられる亜酸化銅のオルソ励起子のコヒーレンスとの緩和の研究
〃	〃	小森 達雄	三次元イジングスピングラスにおけるスローダイナミクスの数値的研究
〃	〃	杉崎 睦	あすか銀河面サーベイにより検出された微弱 X 線天体とそのリッジ放射への寄与
〃	〃	杉田 篤史	超高速可視・近赤外分光による擬一次元ハロゲン架橋白金混合原子価錯体の励起源状態の動力学
〃	〃	須藤 裕之	2 次元電子伝導度測定による超流動ヘリウム 3 表面の研究
〃	〃	関根 佳明	NaV_2O_5 の誘電的性質
〃	〃	田上 勝規	強結合分子動力学法による水素終端 $\text{Si}(001)$ 表面の動的性質
〃	〃	武田 さくら	シリコン表面上のインジウム吸着構造と電子構造の研究
〃	〃	鶴見 剛也	ボース・アインシュタイン凝縮における非線形物理
〃	〃	寺田 智樹	等温滴定型熱量計による GroET へのヌクレオチド結合の研究
〃	〃	中尾 裕則	X 線散乱による NaV_2O_5 の電荷・格子系相転移の研究
〃	〃	中岡 泰	中間エネルギー (p, p') , (p, n) 反応における 2 段階過程の寄与
〃	〃	長野 邦浩	重心系エネルギー 300GeV における陽電子・陽子深非弾性荷電流散乱断面積の測定
〃	〃	新村 芳人	イントロンの起源に関する研究: Hsp70 およびアクチンにおけるモジュールとイントロンの相関
〃	〃	畠山 希	乱流場の微細構造モデルとしてのバーガース渦の統計法則
〃	〃	榎 互介	スタフィロコッカス・ヌクレアーゼのフォールディング機構の研究
〃	〃	山口 昌英	宇宙論的相転移のダイナミクスとグローバルストリングの進化
〃	〃	山中 信弘	原子構造に対する原子核の有限質量、有限体積および分極の効果
〃	〃	渡部 道生	不純物補償のないドーピングした半導体の金属-絶縁体転移
〃	〃	巖 斗和	$\text{CeCoGe}_{3-x}\text{Si}_x$ ($0 < x < 3$) における近藤効果と非フェルミ液体的振舞いに関する研究
〃	天文学	青木 和光	ISO SWS による進化の進んだ低温度星の赤外スペクトルの研究
〃	〃	川崎 渉	南天近傍銀河団カタログの作成
〃	〃	高桑 繁久	H^{13}CO^+ , CH_3OH 輝線をプローブとした、TMC-1C 領域における原始星形成以前の高密度分子雲コアの物理的、化学的進化過程

種別	専攻	申請者名	論文題目
課程博士	天文学	永井智哉	磁場を伴った平板状分子雲の進化
〃	〃	本間希樹	銀河回転とダークマターの正体
〃	〃	増永浩彦	輻射流体力学による原始星形成モデル
〃	〃	松本茂	近赤外カメラ PANIC による銀河系バルジの探査
〃	地球惑星物理学	坪内健	太陽風中の擾乱によって誘起されるバウショックの構造変動
〃	〃	大谷竜	GPS による可降水量推定の評価に関する研究
〃	〃	熊谷英憲	テクトニクスおよびマグマプロセスを反映した希ガス組成変動：インド洋ロドリゲス海嶺三重点周辺地域を例として
〃	〃	白石浩章	ベネトレータ搭載用衝撃加速度計測システムの開発と LUNAR-A ミッションへの適用
〃	〃	杉岡裕子	水中音波および水中カップリング地震波による特異な海底地殻現象の検出
〃	〃	今西和俊	小地震の断層ジオメトリの推定に関する研究：内陸地震への応用
〃	〃	河本和明	AVHRR を用いた衛星リモートセンシングから得られた水雲の微物理特性の全球分布について
〃	〃	阪本敏浩	古典海洋大循環論の層モデルを用いた再考察
〃	〃	辻野博之	太平洋における熱塩循環の数値モデルによる研究
〃	〃	出村裕英	火星クレーターの流動化イジェクタに関する研究
〃	〃	那須野智江	熱帯低気圧のモデルにおける積雲対流スケールのパラメタリゼーションと対流の組織化に関する研究
〃	〃	橋本成司	金星気候システムの安定性
〃	〃	藤原正智	熱帯対流圏オゾンを支配する現象－インドネシアにおける5年間にわたるオゾン観測に基づいて－
〃	〃	本荘千枝	大西洋中央海嶺21° 40' Nセグメントの磁化構造：潜水艇による深海地磁気観測からのアプローチ
〃	〃	傅剛	日本海のポーラー・ロウに関する観測的・数値的研究
〃	〃	趙燕来	プレート衝突モデルによる中部日本の地殻変動の解析
〃	化学	岡村慶	高感度化学発光法を用いた海洋の現場自動化学分析装置の開発とその熱水活動調査への応用
〃	〃	殷熙洙	水晶振動子微量天秤に固定した自己組織化配向単分子膜上の結晶成長過程に基づく新規化学センシング法
〃	〃	李紅軍	海洋境界層中の揮発性ハロカーボン類の測定と分布に関する研究
〃	〃	伊藤光博	かさ高い置換基を有する低配位有機ホウ素化合物の合成と反応
〃	〃	内山勝也	オキシム窒素原子上での分子内 Sn 2 反応およびラジカル環化反応による複数環化合物合成法
〃	〃	尾崎卓郎	希土類元素の植物による取込みの機構および植物体内での挙動と機能に関する研究
〃	〃	檉村吉晃	有機配位子を持つ遷移金属錯体からなる分子性伝導体に関する研究
〃	〃	上口賢	クロムカルコゲニドクラスター錯体の研究
〃	〃	古賀祐司	ロジウム(I)錯体を触媒とする一酸化炭素の挿入を伴う環化反応の開発
〃	〃	小松弘人	二価有機セレン化合物における Se...X 相互作用 (X=N, O, F) の解析
〃	〃	佐藤雅規	火山ガス中の CO ₂ 、CO、CH ₄ の炭素同位体比の研究
〃	〃	肖康平	二相分配および単分子膜界面での分子認識に基づく無機アニオンセンシング法
〃	〃	下池洋一	火山ガスの化学組成の時間変化および拡散放出に関する研究
〃	〃	白井知子	大気中における代替フロン等の超微量ハロカーボン類の分布と変動および挙動に関する研究
〃	〃	高橋一志	新規電子受容体の合成とキャラクタリゼーションおよびその分子性伝導体への応用
〃	〃	竹川道也	電子及び陽電子衝突による二酸化炭素分子の振動励起に関する理論的研究
〃	〃	田中寿	分子性超伝導物質の電気・磁氣的性質の化学的制御
〃	〃	田中素子	固相におけるカルボカチオンの発生と反応

種別	専攻	申請者名	論文題目
課程博士	化学	寺田 秀	Ni,Pd 表面及び、Pd/Ni 薄膜表面での二酸化硫黄分子の吸着挙動
〃	〃	峯本 紳一郎	遷移金属クラスターイオンの電子構造と幾何構造に関する研究
〃	〃	持田 陸 宏	海塩粒子表面における不均一ハロゲン放出過程の研究
〃	〃	山本 薫	一次元 d ⁸ 金属ジオキシム錯体の電子構造と分子配列修飾
〃	生物化学	織原 美奈子	ショウジョウバエの engrailed/invented 遺伝子のプロモーターの個体内転写における機能及び前部区画特異的転写の制御機構
〃	〃	隈原 英子	前初期遺伝子 zif268 の発現を制御するシグナル伝達系 - PC12D 細胞を用いた解析 -
〃	〃	佐藤 慎 二	早期発症型家族性アルツハイマー病原因遺伝子プレセリニン 1 の分子生物学的解析
〃	〃	許 碩 晋	出芽酵母における RHC21/SCC1/MCD1 遺伝子の機能解析
〃	〃	伊藤 俊 樹	新規ホスファチジルイノシトール 5-リン酸 4-キナーゼは小胞体内に局在しリン酸化を受けて機能する
〃	〃	井上 真	RNA 結合ドメインによる 1 本鎖 RNA の認識機構
〃	〃	小野 弥子	骨格筋特異的カルパイン p94 の生理機能解析 - 肢帯型筋ジストロフィー-2A 型発症機構との関係について
〃	〃	紙谷 聡 英	胎生肝の発生の制御機構
〃	〃	川頭 洋 一	GTP 結合性ペプチド鎖解離因子 RF-3 の機能解析
〃	〃	黒柳 秀 人	UNC-51 セリン/スレオニンプロテインキナーゼファミリーに関する分子生物学的研究
〃	〃	河内 全	アミロイド前駆体蛋白質 (APP) の細胞内輸送と分解機構に関する研究
〃	〃	小谷 素子	HTLV-I による T 細胞機能異常の解析
〃	〃	謝名堂 由香	大腸菌の非相互同的組換えにおける DNA 結合蛋白質の役割
〃	〃	高中 陽子	ニワトリ松果体における光受容蛋白質ピノプシン遺伝子の発現調節
〃	〃	竹本 直史	マウス IL-4 遺伝子の発現調節機構
〃	〃	寺田 透	NMR および分子動力学法による Ras と Raf-1 の Ras 結合ドメインとの相互作用の研究
〃	〃	林 貴 史	ショウジョウバエ複眼における細胞運命決定機構の分子遺伝学的解析
〃	〃	林 崇	チロシンキナーゼを介した AMPA 型グルタミン酸受容体から核への情報伝達
〃	〃	水口 留美子	Janus Kinase(JAK) 活性化機構と下流シグナル伝達経路の解析
〃	〃	向山 洋介	マウス胎仔 AGM(aorta-gonad-mesonephros : 大動脈中腎周囲) 領域初代培養系による造血発生メカニズムの解析
〃	生物科学	八倉巻 尚子	乳幼児における歩行発達の運動力学的研究
〃	〃	佐野 俊夫	タバコ BY-2 細胞の増殖の制限因子としてのリン酸の役割
〃	〃	山崎 彰子	北西太平洋沿岸域におけるサブミクロンサイズの粒子：その物理化学的特性と分布、および生物群集によるその生成に関する研究
〃	〃	大石 直哉	標本遺伝子 RP-1 に対する Brn-1 転写因子の機能の解析
〃	〃	中林 一美	シロイヌナズナの Clp プロテアーゼ遺伝子群の解析と葉緑体の老化への関わりに関する研究
〃	〃	箕浦 逸史	クラミドモナス鞭毛の力学的性質に関する研究
〃	〃	伊藤 竜一	原始紅藻シアニディオシゾンを用いたミトコンドリアと葉緑体の個別的分裂制御機構の分子細胞生物学的研究
〃	〃	印南 秀樹	DNA 多型に関する理論的研究
〃	〃	吉田 薫	ニシン精子活性化タンパク質による精子活性化機構の生理生化学的研究
〃	〃	金 火 泰	葉の伸長制御に関する遺伝学的解析
〃	〃	齊藤 知恵子	高等植物の花粉形成過程における細胞分化とオルガネラの不均等分配に関する分子細胞学的研究
〃	〃	斉藤 由美子	酵母小胞形成における Sar1 GTPase サイクルの調節機構
〃	〃	佐藤 美由紀	小胞体タンパク質の局在化機構 - ドリコール合成系鍵酵素 cis-プレニルトランスフェラーゼの発見とその意義 -
〃	〃	篠原 由子	ラット胎仔期における外来性エストロゲンの卵巣交感神経系に対する影響

種別	専攻	申請者名	論文題目
課程博士	生物科学	川崎 真理子	出芽酵母カルモデュリンの細胞の形態形成に必須な機能に関する分子遺伝学的研究
〃	〃	玉井 馨子	アクチビン処理したツメガエル外植体における形態形成運動と細胞分化・分裂の解析
〃	〃	戸田 恭子	高濃度硫酸環境に生息する原始紅藻の硫酸同化に関する分子細胞学的研究
〃	〃	二宮 裕将	アクチビン処理した両生類胚外胚葉片の内胚葉分化および形成体としての働き
〃	〃	野上 識	出芽酵母の利己的 DNA, VDE に関する分子生物学的研究
〃	〃	萩原 百合子	刷り込み遺伝子の同定と分子遺伝学的解析
〃	〃	東山 哲也	裸出胚嚢を持つトレニアを用いた in vitro 重複受精系の確立と重複受精の動的機構の研究
〃	〃	福田 めぐみ	気孔開閉の日周運動と孔辺細胞における細胞骨格系の動的変化との関係に関する研究
〃	〃	三浦 徹	シロアリのコロニー組織化における統合と調節に関する研究
〃	〃	宮永 裕子	ツメガエル胚の外植体における血球の誘導
〃	〃	吉村 美幸子	鞭毛における微小管滑り運動の制御に関する研究
〃	地質学	三浦 敏郎	火山噴煙内部の電荷分布測定とその火山噴煙学的応用について
〃	〃	奥野 暢久	浮遊性有孔虫の季節変動：北太平洋中央部におけるセディメントトラップ実験より
〃	〃	木元 克典	底生有孔虫の Cd/Ca 比に基づいた後期更新世の西太平洋の深層水循環変動
〃	〃	多田井 修	有孔虫の電子スピン共鳴分析とその第四紀古海洋学への意義
〃	〃	高山 英男	キューバ北西部ペニャルベル層の起源および白亜紀-第三紀境界衝突事件との関係
〃	〃	西尾 嘉朗	海洋底玄武岩中の炭素・窒素・ヘリウム・アルゴン同位対比～マントルの炭素循環の解明にむけて
〃	〃	三戸 太郎	棘皮動物 Hox 遺伝子の構造と発現：ボディプラン進化への分子発生的アプローチ
〃	鉱物学	林 彩	紫外から中間赤外波長領域における方解石と石灰岩の分光学的研究：資源探査衛星ふよう1号リモートセンシングデータ解析への応用
〃	〃	逢坂 敬信	白色ラウエ法による CVD ダイアモンドの結晶学的研究
〃	〃	近見 純	始源的隕石から分化した隕石におけるスピネル鉱物中の亜鉛の挙動：太陽系初期における物質分化過程の指標
〃	〃	長谷川 直	赤外線天文衛星を用いた小惑星のアルベド、直径、レゴリス状態の算定
〃	〃	山田 隆	ハイドロキシアパタイトによる in vitro 造血微小環境モデルの研究
〃	地理学	山野 博哉	サンゴ礁礁原の堆積過程
〃	〃	ミゲル・コレテス・パスケス	メキシコにおける対流活動の大気候学的研究

編集：西田 生郎 (生物科学専攻) 内線 2 4 4 7 6
nishida@biol.s.u-tokyo.ac.jp
江口 徹 (物理学専攻) 2 4 1 3 5
eguchi@hep-th.phys.s.u-tokyo.ac.jp
杉浦 直治 (地球惑星物理学専攻) 2 4 3 0 7
sugiura@geoph.s.u-tokyo.ac.jp
佐々木 晶 (地質学専攻) 2 4 5 1 1
sho@geol.s.u-tokyo.ac.jp
小林 直樹 (情報科学専攻) 2 4 0 9 4
koba@is.s.u-tokyo.ac.jp
大井 哲 (庶務掛) 2 4 0 0 5
ooi@adm.s.u-tokyo.ac.jp

印刷.....三鈴印刷株式会社